

公立刈田総合病院に関する住民説明会を開催

住民説明会の動画を配信しています
(市公式ホームページ)



1月23日、ホワイトキューブで「公立刈田総合病院に関する住民説明会」を開催しました。当日は市民など284人が参加し、山田市長が公立刈田総合病院以下「刈田病院」の現状を説明しました。山田市長は、みやぎ県南中核病院との「連携プラン」について、「1市2町の人口減少と高齢化が進んでいく中、仙南地域の持続可能な医療体制を確保するために、連携プランに基づいてみやぎ県南中核病院との医療機能のすみ分けを行い、必要な診療科目を維持しながら慢性期・回復期を中心とした病院づくりを進めている」ことを説明。一方で、財政的な課題として、東北財務局から、「刈田病院への繰出金が一般財源の10%以上を占め、同規模で病院を運営している自治体と比較しても割合が大きいです。このままの負担を続けることは財政上非常に危険である」と指導を受けたこと、また、監査法人から、「刈田病院は複数年債務超過が続いており、実質的に破産状態で、自力再建は困難。早急な手当てが必要である」という報告が

あったことを説明しました。刈田病院の経営体制については、「刈田病院の経営改善などを議論いただいた運営検討委員会からの提言では、速やかな抜本的改革の必要があるとの指摘もあり、病院の所有は公のまま、経営を民間に委ねる公設民営化を導入することで、民間の医療法人の経営ノウハウを最大限活用して、全国から刈田病院で勤務する医師を集めたい」と述べました。また、公設民営化を導入した病院の事例を挙げながら「公設民営化すること、繰出金の減額だけでなく、救急受け入れや周産期医療、訪問看護の実施など地域医療の拡充を目指したい」と説明しました。説明後、公設民営化による改善点や、現在の医師不足が続いている状況への不安、救急医療の受け入れ再開への要望など多くの質問が出され、参加者は説明に対して熱心に耳を傾けていました。本市では、今後も刈田病院の存続に向けて全力で取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

住民説明会でいただいた主な質問事項

- Q. 公設公営から公設民営になると何が変わりますか。
A. 現在の経営体制を維持するには、1市2町で毎年20億円以上の繰出金が必要になります。教育や子育て支援、福祉、災害対応など市のさまざまな事業は、市民の大切な税金が財源となるため、病院にだけ補助金を無限に出すわけにはいきません。公設民営では、民間医療法人の経営ノウハウを生かすことで、経営改善が見込まれるだけでなく、医療法人に対して救急などの政策医療を行うよう指示することができることから、医療の充実と持続可能な病院運営を目指すことができると考えます。
- Q. 厳しい財政状況の中、(仮称)白石中央スマートインターチェンジの周辺整備には、多額のお金がかかるのではないですか。
A. 市の発展のためには、さまざまな投資もしていかなければなりません。スマートインターチェンジの周辺整備の事業費は約106億円の予定ですが、工業団地は進出企業への売却、道の駅とスポーツレクリエーション施設は国からの補助金などを見込んでいます。市の負担としては差引約19億円を見込んでいますが、市債(借入金)などを活用することで1年あたりの支出額が大きくならないよう計画的な返済を行う予定です。
- Q. 刈田病院の医師やスタッフが減少して市民はとても不安を抱いています。
A. 現在、刈田病院の医師が不足していることにより救急の受け入れなどが困難な状況となっています。医師の派遣元となっている東北大学は、東北6県の公立病院を支援されており、すべての病院の要望にこたえられるような医師の派遣ができない状況にあります。引き続き東北大学に医師の派遣をお願いしてまいります。全国から医師を確保することで、地域医療を全力で守りたいと考えています。

コロナ禍での新たな交流事業を企画

白石市国際交流支援協議会では、平成29年よりオンライン交流の聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラ校で、学校体験と同校に通う生徒宅でホームステイの派遣事業を開始しました。また、令和元年には同校の教員2名と生徒12名が本市を訪問し、各学校で1日学校体験と市内中学校に通う生徒宅でホームステイを行い、相互交流がスタートしました。少しずつ結びつきを深めてきた中で、新型コロナウイルス感染症が流行し、海外渡航が自由にできない状況が続いています。「次につなげるためにこの絆を断つてはいけない」「対面でもりも

りトでも若者が受けるベネフィット(恩恵)は変わらない」という双方の思いが合致し、オンライン交流会を企画しました。交流会は昨年12月に市内4つの中学校の2年生が参加し、限られた時間の中で英語科の先生の指導のもと、生徒は見事に発表をまとめ上げました。画面前で「相手に伝えたい」「どうしたら伝わるか」という気持ちがあふれ、相互の生徒の「聞き取りろう!」という姿が画面でわかったり、お互いのリアクションに笑いがあったりと通じたときの喜びや伝える力は大事だということをリモート交流で体験できました。

1_学校紹介で白石中学校の新しい運動着を紹介しました 2_学校のシンボルをクイズにして交流を図りました 3_地元紹介で白石うーめんの魅力を伝える生徒

宝物を発見!

白石国際オンライン交流会を開催しました!

